

教育研究所だより

宮古島市立教育研究所
指導主事 砂川 睦紀
宮古島市平良字西里1140
TEL 73-1104

第21期研究員 久松中学校 與那嶺誉代教諭の検証授業が7月13日（火）に行われました。「対話的な学び」にするためのタブレット PC の効果的な活用について、その活用の場面や使用するアプリなど試行錯誤を繰り返しながら授業づくりに取り組んでいます。

「対話的な学びにより課題解決をする生徒の育成を目指す授業の工夫」
～ ICT の活用を通して～

6月25日から中学1年理科『身のまわりの物質とその性質』の単元において検証授業期間に入り、全12時間の単元プランのもと検証授業を行ってきました。

本時の授業では、各グループで異なる実験を行い、その結果をタブレット（スライドアプリ）を活用し共有することで性質の違いに着目し、物質を特定する内容でした。考察の場面は、個人の考えをタブレット上で可視化・共有化しグループでの考察を深めていました。

白い粉末状の物質を水に溶かしたり、ガスバーナーで加熱したりと様々な実験すすめる傍でキーボードを巧みに操りながら結果を入力していく中学生の姿。すごい時代になりました。必要に応じてノートにもしっかりと記入する様子も見られICTに偏ることなく臨機応変な活用もあり、タブレットPCが文字通り『文房具』となりつつある授業の様子でした。

この日も蔵満逸司先生（琉球大学教職大学院准教授）を招聘しての検証授業でした。授業研究会では、蔵満准教授や所長に加え、久松中学校垣花秀明校長、前泊美穂先生、本村恵作先生にも入っていただき、ICTの活用について多くの指導助言を頂きました。また実際に授業で活用する中での困り感や課題とその対応策についても共有でき有意義な授業研究会となりました。

以下、検証授業・授業研究会の様子です。今回も授業者の研究日誌の「一日の感想」をそのまま紹介いたします。



← 実験の操作とタブレット操作を平行して行う様子。粉末をこぼしたり、ガスバーナーに近づけないような配慮も各々に見られました。

今日は蔵満先生や多くの先生方に観て頂く検証授業でした。「他のグループの実験結果も参考にしながら科学的な根拠を持って考察する」という目標の授業でしたが、多くの生徒が根拠を一生懸命考えて考察を書いてくれました。ただせっかく考えてくれたのに、時間がなく発表までできませんでした。結果から考察を考える場面で、私がもっと丁寧な説明、的確な指示をしていたらもっとスムーズに進んで、発表までできたかなと反省しています。他にも課題は多々ありましたが、所長が「前時の授業の学びが本時の授業の見方・考え方にいかされていた。学びが続いて良かった」とおっしゃってください嬉しかったです。これからも子供たちの資質・能力が伸ばせるよう努力していきたいと思えます。

第21期長期研究員 久松中学校 與那嶺 誉代